

■ 学校の共通目標

|      |    |   |      |
|------|----|---|------|
| 授業作り | 重点 | 各授業において、児童がICT機器に触れる時間を週に一度は必ず設けたり、指導者はデジタル教材を活用した授業を計画したりする。週案にICT機器活用の時間を明記する等、学校としてICT活用の推進を徹底し、ICTを効果的に活用した授業作りを行う。<br>また、児童の論理的思考力を育むために、「愛日プログラミングタイム」を各学年に設け、児童のプログラミング的思考を高めるための取り組みを位置付ける。また、学校としての方針として明らかにする。その中で、プログラミング的思考と、教科の学びを両立させる。 | 最終評価 |
|      |    | 愛日スタンダード等を基にして、学校として同じ方向を向いた学習指導・生活指導の徹底とhyperQUの活用等による児童理解をすすめ、自己決定の場の確保や自己肯定感をもたせる学習環境を整える。<br>また、全教室ユニバーサルデザインを意識した教室掲示等、統一した環境作りを行う。<br>上記の点から、児童がいつでも安心して学べる環境を学校として整える。   |      |
| 環境作り |    |   |      |

■ 学年の取組内容

| 学年 | 教科 | 令和元年度の定着度調査（1学年を除く）や6月以降の学習状況に基づく分析   | 学力向上に向けての児童の課題   | 改善のための取組  | 追加する取組等（12月） | 年度末の取組評価（2月） |
|----|----|---|--|---|--------------|--------------|
| 1  | 国語 | <p>学 ひらがなや漢字の書き順や字形の習熟や、拗音や促音、「はをへ」などの使い分けが、なかなか定着しない児童がいる。</p> <p>学 集中して最後までしっかり話を聞くことができない児童が多い。</p>  | <p>学 正しい書き順や整った字形を書こうとする意欲が低く、文章の書き間違えなども多い。</p> <p>学 話を聞く際、気持ちが悪く感じたり、手遊をしてしまったりする姿が多く見られる。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>書き順や字形を正しく書くように、練習の際には、机間指導などで教師が確認し、その都度指導をしていく。短文作りや添削などの機会を増やし、正しい文の書き方を繰り返し指導していく。</li> <li>話を聞く際、常に話者に視線を向ける、手は動かさない、話している途中に口を挟まないなどの指導を徹底していく。</li> </ul>           |              |              |
|    | 算数 | <p>学 たし算・ひき算の計算も、ほとんどの児童が理解・処理ができるが、ケアレスミスや、問題の解き方がわからないなどが見られる。</p>  | <p>学 繰り上がり、繰り下がりの計算になり、理解力や計算速度に関し、児童の能力差が出てきている。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>練習問題の難易度や、問題量などに幅をもたせて個別対応ができるようにする。いろいろな問題に慣れさせるような教材を工夫する。</li> </ul>  |              |              |
| 2  | 国語 | <p>学 ひらがなやかたかなに加えて、漢字の習得も反復練習を取り入れたので、定着してきている。</p> <p>学 話の要点を聞き取ることはだいぶできるようになってきている。</p>  | <p>学 文章表記で、漢字の書き間違いや拗音や促音、助詞などの間違いも見られる。</p> <p>学 集中して話を聞くことができない。</p>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字の学習の際、全体指導を徹底し、小テストやノートへの書き取りなど、反復練習を年間通して行う。また、言葉集めや文作りの際に、同音の漢字について触れ、それぞれの意味について伝えるようにする。</li> <li>話を聞く際、常に話者に視線を向ける、手は動かさない、話している途中に口を挟まないなどの指導を徹底していく。</li> </ul> |              |              |
|    | 算数 | <p>学 計算処理については、繰り上がりや繰り下がりなどの理解と処理はだいぶできるようになってきている。</p>  | <p>学 文章題から文意を読み取り、図に表すような思考力については、個人差がある。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな問題に慣れさせるような教材を工夫し、個々の理解度に合わせて問題に取り組みさせるようにする。</li> </ul>  |              |              |
| 3  | 国語 | <p>調 領域「書くこと」の正答率は、目標値及び全国平均を上回っていたが、他の領域と比べると低い結果となっていた。</p> <p>学 臨時休校中の作文の課題からも文章を書くことに対する苦手意識があり、読み手を意識した文章を書く能力がまだ十分身につけていない状況である。</p>                          | <p>学 作文の課題、学習感想を見ても、正確に句読点を付けた文章の構成を考え、自分の伝えたいことを順序立てて書いたりする力がまだ十分ではない。</p>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>作文の課題に週一度取り組ませることで、まずは文章を書くことへの抵抗感をなくしていく。</li> </ul>  |              |              |
|    | 算数 | <p>調 全体的に目標値、全国平均正答率を上回っていたが、「長さ・かさ」の問題の正答率は低い結果となっていた。</p> <p>学 計算を得意としている児童も文章題になると、立式が難しくなったり、言葉の式を立てたりすることができなくなっていたことから、数学的な考え方がまだ十分に身につけていない状況であることが分かった。</p> | <p>学 基礎・基本が定着している児童が多いが、問題を解く際にケアレスミスをする児童が多い。</p> <p>学 文章題で、自分の考えを式に表し、それを分かりやすく説明することに課題がある。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシック・ドリルを活用しながら、既習事項の定着、習熟を図る。</li> <li>式を立てる際に、言葉の式で考えることで、自分が行っている操作が文章題の中でどのような意味をもつか考えながら、問題に取り組めるようにする。</li> </ul>   |              |              |
| 4  | 国語 | <p>調 前年度新宿区学力定着度調査では、すべての領域で目標値を上回っていた。</p> <p>学 相手の思いや意図を読み取ろうとする意識が低く、最後まで話が聞けなかったり、興味をもって話を聞こうとしたりすることができない。</p>   | <p>学 何を一番伝えたいかなど、話の中心を意識したり、話の構成を工夫して書いたり話したりすることができていない。人の話も何を言おうとしているか意識して聞くことができていない。</p>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>書く視点を明確に与えたり、難型を提示したりすることによって、自分が何について書いているのか最後まで意識して取り組めるようにする。</li> </ul>  |              |              |

|   |    |   |   |  |  |  |
|---|----|---|---|--|--|--|
|   | 算数 | <p>調 前年度新宿区学力定着度調査では、すべての領域で目標値を上回っていた。</p> <p>学 基本的な知識は身に付いているが、テストの際に、問題の読み間違えや単位の書き忘れなどが目立ち、丁寧に取り組む習慣が身に付いていない。また、知識が先走り、思考力・判断力・表現力については十分に身に付いているとはいえない。</p>   | <p>学 知識を活用する応用の仕方が身に付いていない。</p> <p>学 テストの際、問題を注意深く読み、一問一問丁寧に解くこと。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業展開の中で、式を読み、相手に伝える活動を多く取り入れることで、深い理解につなげたり、自分の知識をどのように使うことができるか気づかせたりできるようにする。</li> <li>大事なところに線を引いたり、印をつけたり、丁寧な字を書いたりすることでケアレスミスが減らせることを実感できるように指導する。</li> </ul>  |  |  |
| 5 | 国語 | <p>調 前年度新宿区学力定着度調査では、全ての領域で目標値を上回っていた。</p> <p>学 書く領域では、自分の気持ちを言葉で表すことが苦手である。また、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして文や文章を整えることが十分には、できてない。</p> <p>学 漢字の習熟に大きな差がみられる。</p>   | <p>学 常体、敬体の使い分けや統一が不十分である。考えたこと、思ったことを表す語彙が少ない。自分で書いた、文や文章を整えたり、表現がより良いものになっているかを確認したりすることが不十分である。</p> <p>漢字については、勘違いをして覚え書いたり、繰り返し学習したりすることができていない。</p>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>本を読んだり、ほかの人が書いたりした作文を読むことで、語彙を広げられるようにする。</li> <li>表記の仕方や文末表現の使い方に注意したり、相手や目的や意識した表現になっているかを確認したりする等の推敲のポイントを提示する。また、下書きと推敲後の文章を比べる等の工夫し、児童自身が推敲の良さや重要性を実感することができるようにする。</li> <li>毎日の家庭学習の必要性を見出せるように、毎週漢字小テストを行う。</li> </ul> |  |  |
|   | 算数 | <p>調 前年度新宿区学力定着度調査では、全ての領域で目標値を上回っていた。</p> <p>学 基礎基本の学習に差が見られる。計算問題では計算の方法が身につけていない。また、文章問題では、単位間違えや数字間違え等のケアレスミスが多かったり、文章を読み取り立式していなかったりする。</p>  | <p>学 小数×整数や小数÷整数、小数×小数、小数÷小数の計算ができない。また、単位の認識が不十分である。文章問題を読み取る力が弱く、何算で計算するのかが分からなくなっている。単元テストや小テスト等で見直しをせずに単位の付け忘れや間違えが多い。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>単位について再確認し、繰り返し計算問題に取り組み、定着を図る。また、ノートへの表記も単位をそろえて書くように指導することで単位を意識させる。</li> <li>文章問題を解く時には、何を求めなければいけないのかをアンダーラインを引いたり、数直線を書いたりして確認をする。</li> <li>テストの時には、見直しをさせる。</li> </ul>  |  |  |
| 6 | 国語 | <p>学 漢字学習に継続して取り組んだことで、確実に定着している児童が多いが、ワークテストから個々の差が大きく開いている現状が見られるため、授業だけでなく家庭学習を通して定着を図っていく必要がある。</p> <p>調 前年度新宿区学力定着度調査では、どの領域も目標値を大きく上回っていた。「書くこと」に苦手意識があったが、前年度に日記(作文)を継続的に実施してきたため、意欲的に取り組むことができるが、段落相互の関係や、効果的な表現まで意識が向かない児童が多い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字については、単純な書き間違えをしたり、丁寧に取り組んだりすることに課題がある。</li> <li>自分の考えや出来事について要点をまとめて、書くことを苦手としている児童が多い。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字に関する漢字小テストを計画的に実施し、引き続き漢字の定着を図るとともに、正確さに意識を向かせる声掛けを行い、ミスをなくす意識を高める。</li> <li>自分の思いや出来事など、伝えたいことを明確にして書くように指導する。また前年度同様、週に1回日記(作文)の課題を出し「書くこと」の習慣化を図る。</li> </ul>  |  |  |
|   | 算数 | <p>学 基礎・基本の学習内容は定着している児童が多い。しかし、記述問題や作図問題、小数・分数の計算に課題が見られる。</p> <p>調 前年度の調査結果からも学力の分散傾向が見られる。課題のある児童へのフォローを個別に行ってきたことで成果が上がっているが、習熟が十分でない児童がいる。</p> <p>学 学習内容を理解しているが、単純な計算ミスをしてしまうことがある。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>小数のわり算の計算では、小数点の位置の確認が不十分な児童が多い。</li> <li>既習事項が定着していない児童が、それらを活用する問題に対して苦手意識をもってしまう。</li> <li>計算や作図に丁寧に取り組むことが課題となる児童が多く単純なミスにつながってしまう。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>練習問題など通して既習内容の復習をし、さらに定着を図る必要がある。また、自分の考えをノートに書いたり、発表したりする活動をさらに増やしたりしていくことで、理解を深められるようにする。</li> <li>新しい単元に入る前に行うレディネステストを活用し、習熟度別にクラス編成し学習状況に合わせた指導を行う。また、フォローアップワークシートなどを活用して個別指導を充実させていく必要がある。</li> </ul>                  |  |  |
|   | 音楽 | <p>学 歌唱や器楽に興味をもち、楽しく演奏に取り組むことができている。主体的に思いや意図をもって表現し、実現するための技能は十分ではないが、音楽づくり、鑑賞では、自分の思いをワークシートや楽譜や文章等で表現することができてきている。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>難易度の高い課題に取り組んだとき、諦めてしまう場面がみられる。</li> <li>音楽表現を工夫することに対して難しさを感じている児童がいる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>技能面では、音楽の基礎・基本がさらに定着するよう、発達段階に応じた指導の工夫をし、活動を取り入れていく。</li> <li>自分の思いと友達の良さに気付かせるよう、グループでの活動や共有する場面を多く取り入れる。</li> </ul>   |  |  |
|   | 図工 | <p>学 友達の作品から良さや面白さを見つけて、自分の作品の中で試そうとする児童が増えた。また、作品完成まで丁寧に仕上げようとする意識が高まってきている。ただし、時間内に見通しを持って完成させるのが難しい児童がいる。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のイメージを時間内に絵や形にするために、どの順番で取り組むと効率的な進め方ができるか、導入で活動の進め形について分かり易く伝える必要がある。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な進め方があることを参考作品を用いて伝え、いつでも確認できるように掲示しておく。その中でどのやり方が良いのかを考えて最適な方法を自分で見つけられるようにする。</li> </ul>  |  |  |

|    |   |   |  |  |  |
|----|---|---|--|--|--|
| 特支 | <p>学 個別学習に、集中して取り組めるようになってきた。計算や漢字、詩の音読など、毎日繰り返し行う学習に、意欲的に取り組む児童が増えてきた。一方で、集団で、話を聞いたり、スピーチをしたりする活動やコミュニケーションを必要とする学習が苦手な児童が多い。自信がなくて、消極的になってしまう児童もいる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年の多くの児童は、席に座って静かに話を聞くことができる。低学年の児童は、座ってじっとしていることが苦手な児童が多く、姿勢保持が課題である。</li> <li>・話の内容を正しく聞き取ったり、質問に答えたりすることができる児童は少ない。また、自分の気持ちを言葉で伝えることや集団での対話など、コミュニケーションをとることは課題がある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞くとき、話すときのルール、声のボリューム表などを示し、日常的に意識付けながら対話力を高められるようにする。</li> <li>・言葉で伝えられずに不適応を起こす児童には、どんな相手の思いを受け止められるよう、必要に応じて教員が言いたいことを言語化し、伝え方を示す。</li> <li>・受容的な雰囲気をつくり情緒を安定させながら自己表現を促す。</li> </ul> |  |  |
|----|---|---|--|--|--|

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。